

総合評価方式の活用・改善等による 品質確保に関する検討について(実施計画(案))

1. 平成21年度の実施計画(案)

(1) 総合評価方式の改善等

総合評価方式のフォローアップ(年次報告書の作成)

国土交通省における総合評価方式の現況をとりまとめ、公表する。【資料1 - 3】

総合評価方式の改善策の評価

平成20年度にとりまとめられた下記の改善策の実施結果について分析・評価する。

・総合評価方式の手続きの簡素化(実績重視型総合評価方式)

平成20年度2次補正予算成立後、実施した314件について、これに関わった業務量を把握するとともに、新規参入業者への配慮や受注者の偏りについて分析し、フォローアップする。【資料1 - 3】
平成21年度も、上記の観点から引き続きフォローアップを行う。

・工事関連データの提供や、情報交換の場の設置【参考1】

工事関連データの提供については技術資料作成の負担の大きい工事(WTO対象工事や高度技術提案型など)について、約30件程度で試行する。
現場説明会の開催を、WTO対象工事など約15件程度で試行する。

・技術提案の評価(採否)の通知【参考1】

全ての整備局において、標準型の技術提案については、その採否の通知を実施済み。
九州地方整備局においては、加点評価の有無の通知を実施済み。
(その他の地方整備局は準備が出来次第実施予定)
平成21年度は上記の通知方法について、フォローアップを行う。

総合評価方式における残された課題の試行結果の評価
二段階選抜方式及び事後審査型入札方式について試行し、その結果について評価する。

両方式については、それぞれ10件程度試行する。【参考2】

(2) 多様な発注方式

設計・施工一括発注方式、詳細設計付工事発注方式

平成20年度にとりまとめた「設計・施工一括及び詳細設計付工事発注方式 実施マニュアル」(平成21年3月 国土交通省)(以下、「マニュアル」という)を踏まえ、両方式の活用を図るとともに、受発注者間のリスク分担に関するフォローアップを実施する。

設計・施工一括発注方式については、高度技術提案型(型)¹を適用する工事において試行する。

詳細設計付工事発注については、高度技術提案型(型)²または標準型で実施する工事のうち、下記に該当する工事について試行する。

現地の地形や地質等の自然条件が特殊であり、仮設工法や掘削工法等の施工者のノウハウを活用する必要がある大規模な橋梁工事やトンネル工事(共同溝工事)
いくつもの工事が輻輳する等、現地の工事間の調整について、施工者のノウハウを活用する必要があるダム工事
機械や電気設備等、工場製作が太宗を占める工事 等 [マニュアル「2.1適用工事」より]

1 高度技術提案型(型)は、施工方法に加えて、工事目的物自体について提案を求める方式。

2 高度技術提案型(型)は、高度な施工技術や特殊な施工方法等の技術提案を求める方式。

CM方式の活用について

平成20年度にとりまとめた「国土交通省直轄事業における発注者支援型CM方式の取組み事例集」を踏まえ、発注者支援型CM方式の普及を図るとともに、**新たなCM方式（工事の審査・評価への拡大）の導入**を図る。【参考3】

新たな入札契約制度の導入について

海外における土木分野の調達方法や、国内における土木分野以外の調達方法について調査・整理するとともに、**新たな入札契約制度の導入**について検討する。【資料1 - 5】

(3) VFMに関する研究

「技術の価値」を明確化するため、技術評価点と予定価格との関係等についてデータ分析や、ヒアリング調査等を行い、技術への対価の考え方について研究する。

また、上記研究成果を踏まえ、適正な評価項目や評価基準の設定について検討を進める。

1-1 工事関連データの提供

WTO対象工事や高度技術提案型など、技術資料作成の負担の大きい工事において試行を実施(約30件程度)。

データの提供によって、受注者側の技術提案作成の情報収集にかかる負担が減少している。発注者側のデータ準備等の負担増が課題であるが、一部には、情報開示請求等があった場合に比較すれば負担が減少しているという意見もある。

試行工事の具体例(CDによるデータの貸与)

◆工事概要				◆データの提供に関する意見・感想			
工事名	平成21年度伊豆縦貫大場南道路建設工事			発注者側 ・マスキング等の事前準備に労力を要する。 ・一方、競争参加者が工事関係資料を入手するためには、各企業は発注予定情報から予定工事を把握し、それに続き関連業務成果の開示請求をして入手していた。そのため、事務手続きが煩雑となっていたのが現状であり、開示請求対応があったことを考えると、事務量が軽減された面もある。			
公告日	H21.7.21	開札日	H21.9.4			契約日	H21.10.6
主要工種及び数量	盛土工 4,000m ³ 、地盤改良工(深層混合 16,000m ³ 、浅層混合 15,000m ³)						
工事規模	一般土木 A+B		総合評価の種別			標準	
◆工事関連データの提供方法				受注者側 ・資料の貸与により、閲覧の場合と比較して、資料把握の効率が良くなった(閲覧の場合、資料の量・内容により複数名で閲覧する必要がある、カメラ等の精度により資料の有効性が左右される、時間・資料量により見落とし、省略が出るなどの問題がある)。			
提供データ	地質調査業務成果品						
提供方法	CDによるデータの貸与						
提供者数	8社 (競争参加者数:9社)						

1 - 2 情報交換の場の設置

WTO対象工事や本官発注工事、不調・不落が想定されるような工事等において、現場説明会（個別面談・時間をずらした集団面接）の開催の試行を実施。（約15件程度）

大規模工事において、技術提案をするにあたって不明確な点が理解できた等の意見があった。また、不調・不落が想定されるような工事において、工事の内容が把握できたことで競争参加者の確保につながったと考えられる事例が見られた。

試行工事の具体例(WTO対象工事)

工事概要						説明会に関する意見・感想	
工事名	京都第二外環状道路西山トンネル奥海印寺工区工事					発注者側 ・説明会を開催することで、各社からの質問に対し同時に回答を聞くこととなり、お互い共通の認識を持つことは重要である。 ・受付時に、各社にアルファベットを付与し、質問をおこなう時は、各社には会社名を言わずに、与えたアルファベットを言うように対応した。このように、社名が判明しないような配慮が必要である。	
公告日	H21.9.30	開札日	H22.1.27	契約日	未		
主要工種及び数量	道路トンネル(NATM)(上り)L=1,660m、(下り)1,672m 坑門工 1式、盛土 236,800m ³ 、切土 8,200m ³ コンクリート 40,975m ³ 、鉄筋 702t、鋼材 1,423t					受注者側 ・技術提案を記載するにあたって、不明確な点について直接質問することが出来、概ね理解した。 ・今後もぜひ、このような説明会を開催して欲しい。 ・説明会が1時間限定であり、質問する時間が短かった。	
工事規模	WTO対象	総合評価の種別		高度技術			
説明会の実施方法							
実施方法	集団面接						
説明状況	参加者18社に対して、1時間の集団面接						

参考1. 総合評価方式の改善策の実施状況

1 - 2 情報交換の場の設置

試行工事の具体例(不調・不落が想定される工事)

工事概要						説明会に関する意見・感想
工事名	平成21年度 22号伝法寺歩道橋上部工事					発注者側 ・本工事は過去6回の公告で参加者がゼロであったため、現場説明会開催を試みた。 ・現場説明会の開催は、一般競争移行後、全国初の試みとなるため、周知徹底を図る必要性から、公告後、ファックスにて全ての有資格業者に開催案内を送付した。 ・一同を集めた現場説明会は、談合の要因となったとの批判があることに鑑み、説明会は個別に行うこととした。 ・参加業者が12社となったため、時間調整が大変であり、また、企業が顔を合わせないよう説明前後に時間を取ったため、説明会に丸2日を要した。 ・この様に大変な手続きであったが、結果として本工事が無事落札される運びとなった。
公告日	H21.5.7	開札日	H21.6.16	契約日	H21.6.22	
主要工種及び数量 伝法寺歩道橋(鋼床板箱桁橋)L=70.4m 鋼材 約100t、高力ボルト 約1,300組、アンカーボルト 8組、普通ボルト 約200組						受注者側 ・説明会は、個別の直接面談で、工事の背景や入札説明書・設計図書及び追加特記仕様書の注意点等の説明を頂いた。 過去の現場説明会とは違い、個別のため、確認事項も聞きやすく参考となった。 また、工事発注に関する熱意を感じ、受注意欲が湧きました。個別面談で直接、話が出来るという事は文書だけの回答より、その工事に対する発注主の思い、ニュアンスが読み取れる事が良いと思われる。
工事規模	鋼橋上部工A	総合評価の種別	簡易型			
説明会の実施方法						
実施方法	個別面接					
説明状況	参加希望12社を2日間に分けて個別説明					

参考1. 総合評価方式の改善策の実施状況

1 - 3 技術提案の評価(採否)の通知

全整備局において、標準型の技術提案については、その採否の通知を実施済み。
 通知項目は、「不採用(実施してはならない)」となった事項。
 準備の整った地整等では、加点評価の有無の通知も試行。
 (九州地方整備局で実施済。下半期より、中国、四国地方整備局で試行実施予定。)

採否通知の具体例(加点評価の通知)

競争参加資格の有無	有
	理由または条件
	<p>ただし、平成21年4月1日までに、九州地方整備局における平成21・22年度の維持修繕工事の一般競争参加資格の認定を受けていること。 【お知らせ】 第1回の入札に際し、入札書とともに提案値入札書、工事費内訳書の提出を求める工事です。 提出方法等について、「入札金額・工事費内訳書及び提案値入札書に関する注意事項」(92-uchiwake.xls)を必ずお読み下さい。</p> <p>技術提案に基づく入札の可否：可 可否の詳細については下記を参照すること</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>██████████ 工事 ██████████ 株式会社</p> <p>○：可(評価する、実施義務あり) -：否(評価しない、実施可能) ×：否(評価しない、不採用であり実施不可)</p> <p>総合評価項目</p> <p>██████████ について × ██████████ について ○ ██████████ について - ██████████ について - ██████████ について ○ ██████████ について</p>

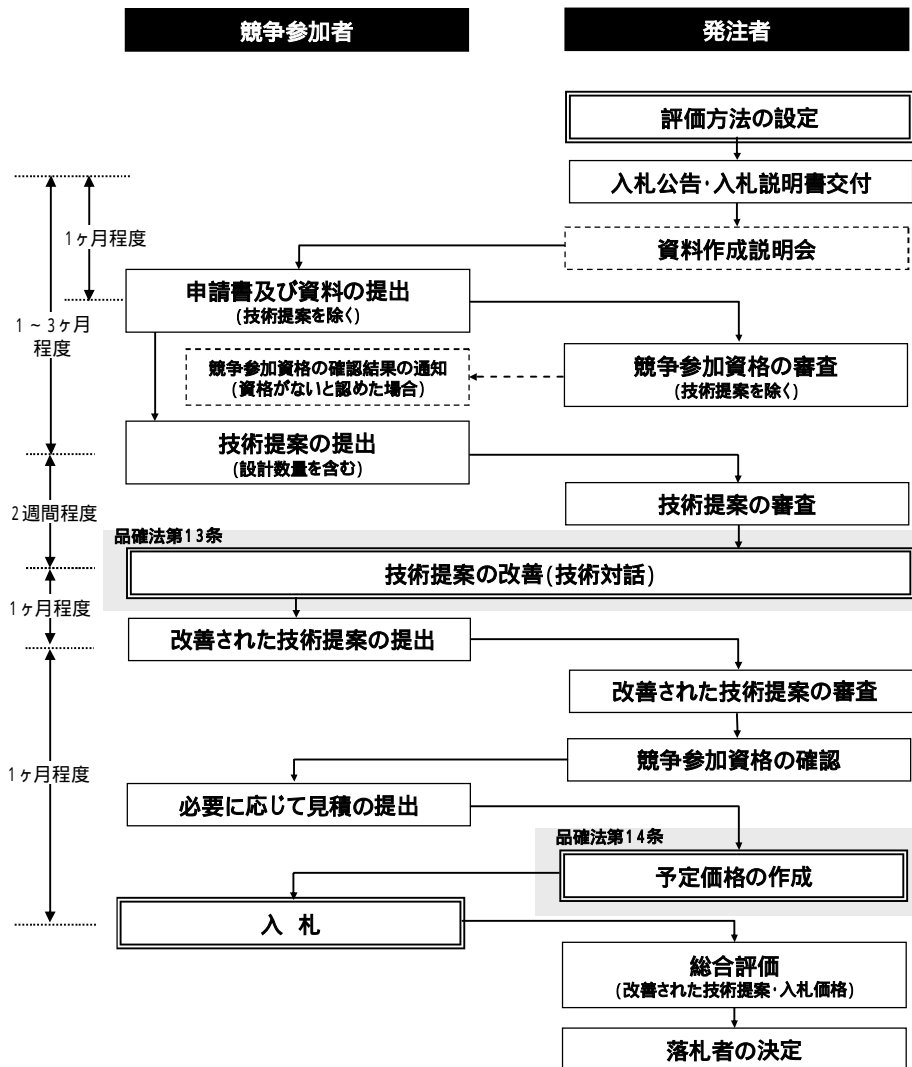
採否通知の具体例(採否のみの通知)

競争参加資格の有無	有
	理由または条件
	<p>技術提案に基づく入札の可否</p> <p>1. 技術提案</p> <p>(1) ██████████ 可/技術提案に基づく入札をされたい。</p> <p>(2) ██████████ 一部否：技術提案に基づく入札をされたい。 ただし、██████████ については、██████████ ██████████ ため、技術提案として認めないこととしたものです。</p> <p>2. 技術提案に係わる具体的な施工計画</p> <p>(1) ██████████ 可/技術提案に基づく入札をされたい。</p> <p>(2) ██████████ 一部否：技術提案に基づく入札をされたい。 ただし、██████████ については、██████████ ██████████ ため、技術提案として認めないこととしたものです。</p>

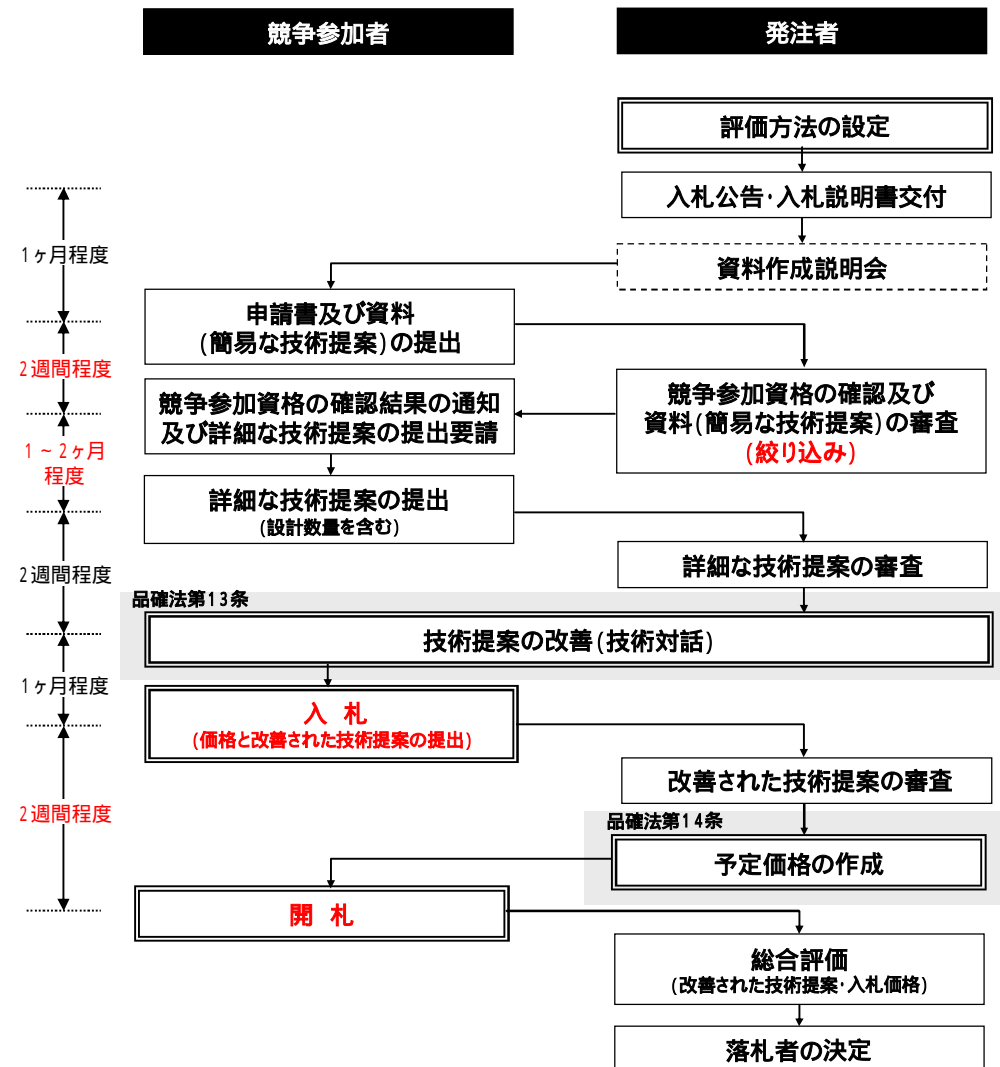
参考2. 総合評価方式の諸課題への対応

2 - 1 二段階選抜方式について

現行の高度技術提案型のフロー



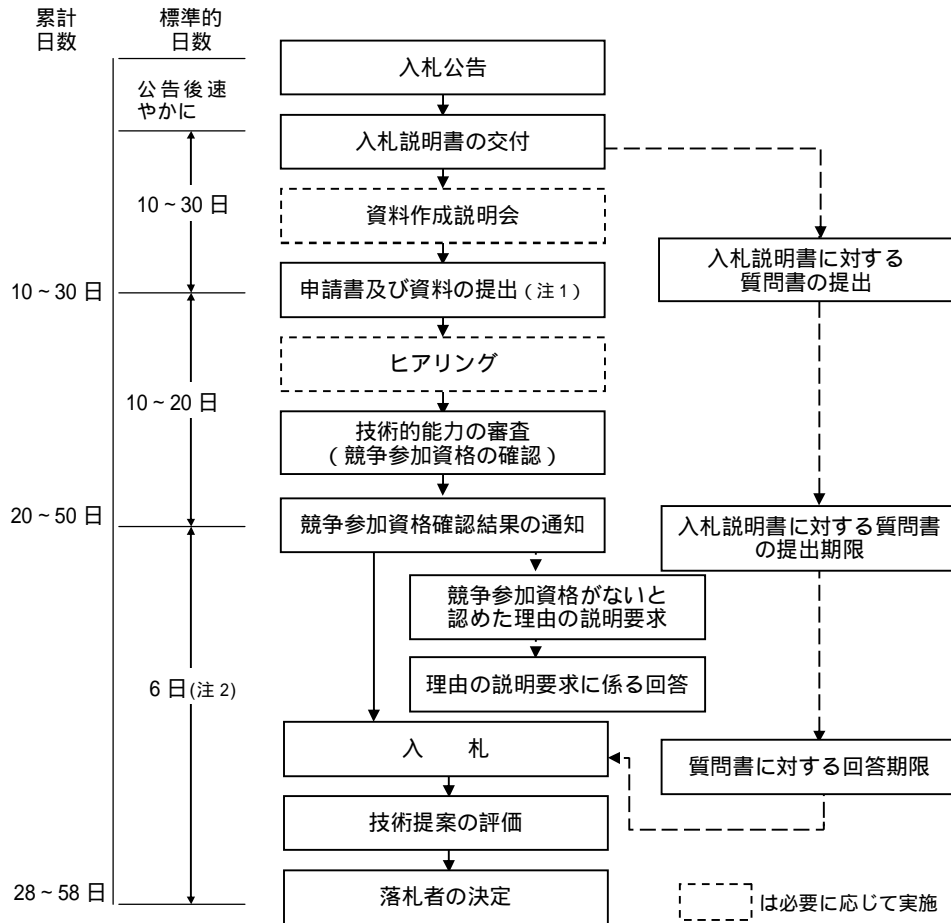
二段階選抜方式を採用した高度技術提案型のフロー



参考2. 総合評価方式の諸課題への対応

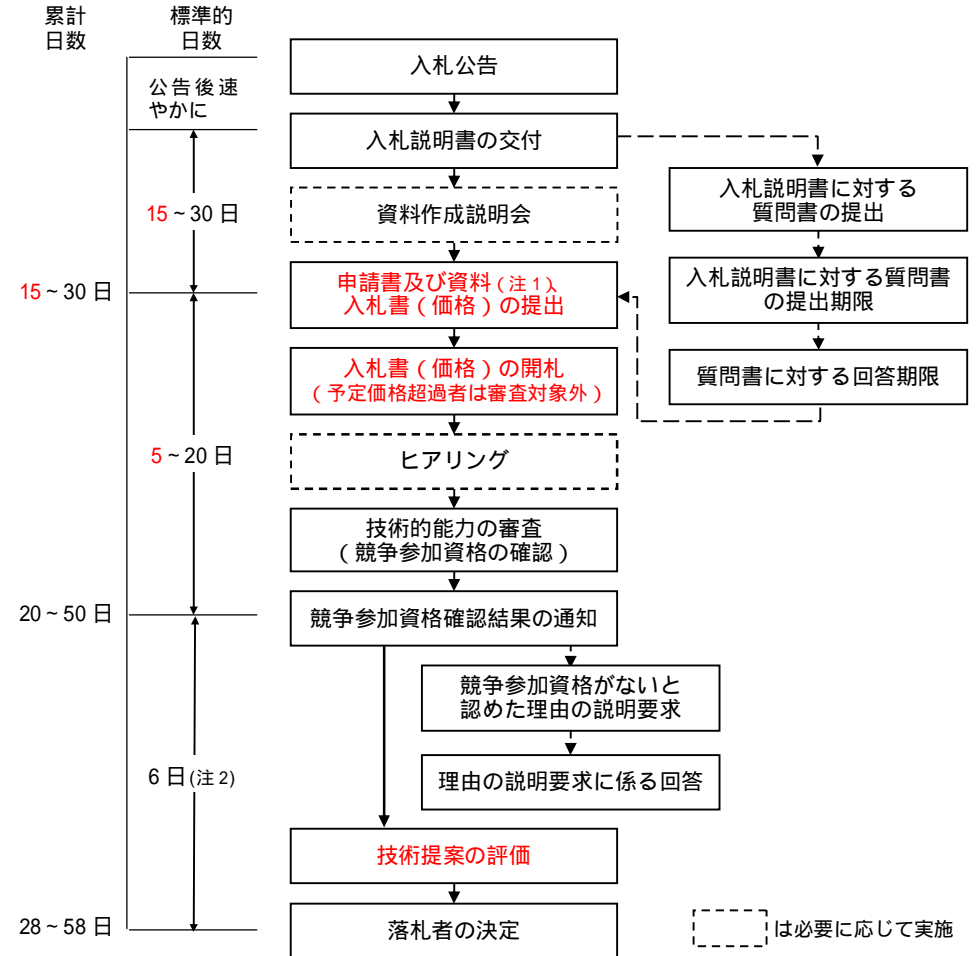
2-2 事後審査方入札方式について

現行の簡易型のフロー



(注1) 申請書及び資料とは、競争参加資格確認申請書及び技術資料のことであり、技術資料とは、技術的能力の審査に要する資料及び技術提案をいう。
 (注2) 日曜日、土曜日、祝日等を含まない。

事後審査型入札方式を採用した簡易型のフロー



(注1) 申請書及び資料とは、競争参加資格確認申請書及び技術資料のことであり、技術資料とは、技術的能力の審査に要する資料及び技術提案をいう。
 (注2) 日曜日、土曜日、祝日等を含まない。

参考3. 発注体制強化のためのCM方式の導入・活用

これまでの発注者支援業務(入札公告等の作成支援、技術資料の整理・分析等)に加え、CMrとして、技術資料の評価や技術審査会等において審査・評価結果の説明を実施する方式を導入。

下半期における実績重視型総合評価方式の審査・評価において試行を実施。

